

別にみたところ、全く利用しなかった群、利用頻度が低い群、利用頻度が高い群の認知率は、コミュニティペーパーHANA が各々26.8%、31.6%、55.3%、コミュニティセンターrise が 58.5%、56.1%、76.3%、ALN の配布するコンドームが 51.2%、54.0%、79.1%であった。

また、全く利用しなかった群、利用頻度が低い群、利用頻度が高い群で、過去6ヵ月間における男性とのセックス経験者の割合は各々65.9%、79.6%、94.0%、アナルセックス経験割合は 39.0%、46.9%、79.1%、過去6ヵ月間における男性とのアナルセックス経験者におけるコンドーム常用割合は 12.5%、34.8%、32.1%、HIV/STI 感染に関連するリスク行動の経験割合は 83.3%、77.1%、95.0%であった。

以上のことから、商業施設の利用頻度が高い群はALNの啓発活動を認知している者が多かったが、性行動も活発であり、感染リスクも高いことが示唆された。MSM向け商業施設を介したHIV感染予防啓発活動は、HIV感染リスクが高い集団に情報を届ける手段として継続する必要が示された。

2) HIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

a. 目的と方法

各地域の保健所・保健センター等での受検件数の動向を把握すること、また受検者へのアンケートによりHIV抗体検査を受検する者の特徴を把握すること、保健所・保健センターを中心として展開している検査事業にMSMがどの程度受検しているかを把握すること、本研究班のNGOが展開しているMSM向けの啓発普及が受検者にどの程度認知されているかを把握すること、そして受検行動の促進要因を明確化することを目的とした。

8都府県11自治体83機関で受検者を対象とした質問紙調査を実施した。通常検査、即日検査のいずれの場合も検査結果が返却される前に質問紙を記入することを依頼した。記入後は回答者が回答用封筒に質問紙を密封し、設置された回収箱に投函することとした。回答質問紙は毎月末に各機関から調査事務局へ密封したまま郵送された。質問項目は基本属性等の約24問とした。

b. 結果・考察

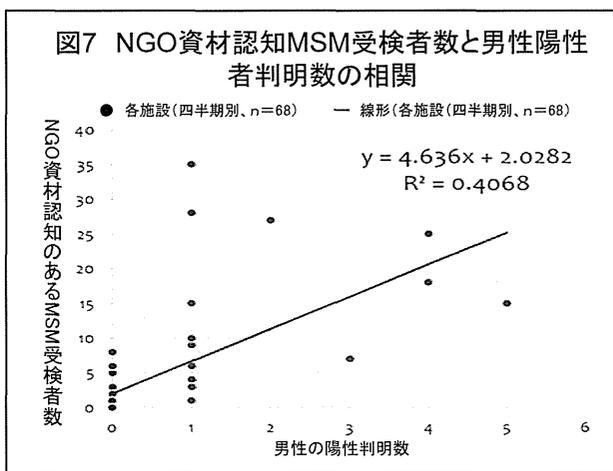
2012年1月～12月の調査期間中の受検件数は総数40,766件、陽性判明数は198人(0.49%)であった。質問紙の有効回答数は26,478人(有効回収率65.0%)

であった。平均年齢は33歳±10.6歳であり最少年齢12歳、最高年齢86歳であった。

MSM割合は、宮城県内10.8%、東京都内14.9%、南新宿検査・相談室27.1%、神奈川県11.2%、千葉県8.2%、愛知県14.6%、大阪府内11.4%、chot CASTなんば15.8%、福岡県内14.8%、沖縄県内23.1%であった。

南新宿検査・相談室と沖縄県内を除けば各地域のMSM割合は四半期別にみて10%~15%前後を推移しており著変はなかった。MSMにおけるHIV感染が地方や若年層に拡大している可能性が考えられるため受検行動をさらに促進する必要がある。

本研究では、「仮説1 MSMの受検者が多い施設はHIV陽性報告数が多い」「仮説2 NGOの活動が真に感染リスクが高く、ニーズのある層に届いていれば、NGO資材を認知しているMSMの受検者が多い検査施設はHIV陽性報告数がさらに多い」として、仮説1、仮説2を前提に、男性における陽性判明数と①MSM以外の男性受検者数との相関、②NGOの資材を認知していないMSM受検者数、③NGOの資材を認知しているMSM受検者数との相関関係(図7)を分析した。それぞれR²値は、R²=0.1747、R²=0.2507、R²=0.4068で、NGO資材認知受検者数が多いほど陽性判明数が多くなることが示された。



3) MSMのHIV感染に関する社会的背景および感染対策に寄与する要因の研究

-ロジックモデルを用いたCB0によるHIV啓発活動のプロセス評価-

a. 目的と方法

本研究では、CB0が行っているプログラムのプロセスをロジックモデルの方法を用いて記述している。これによる効果としては以下の5点が期待され

る。(1)CBO スタッフ及びボランティアのプログラム実施者が個々に持っている活動目的や期待する成果に関する理解を整理できる(共通理解)、(2)世代や主要メンバーが交代してもプログラムの目標を維持できる(目標の維持)、(3)新しく活動に参加しようとするボランティアや同様の活動を考えている他地域のCBOあるいは行政等がプログラム全体を容易に理解できる(説明のツール)、(4)CBOスタッフが事業の見直しや資源の適切な配分などを考えることができる(マネジメントのツール)、(5)活動の効率や効果を評価するための適切な指標(調査項目)を設定できる(評価指標検討のツール)。

b. 結果・考察

2012年度は、MASH 大阪との関係を構築しつつ、コミュニティセンターとしての「コミュニティスペース dista」に関するプログラム評価ワークショップを行い、参加者によるロジックモデル構築を試行した。本報告では、CBOにより適宜更新されていく中間段階のものを提示した。

distaを運営するMASH大阪の最終的な目的は近畿地域におけるMSMのセクシュアルヘルスの向上である。その目的達成のために、以下の点を基にdistaを運営していることが明らかとなった。

- ・HIVが特別と思わなくなる
- ・コミュニティでHIV/STIの話題を話すことができるようになる
- ・自分で考えて情報を求め得る
- ・自分で考えて検査を受検する
- ・自分で考えて相談する
- ・医療や検査相談などの社会資源が身近になり利用できる
- ・コンドームを使う
- ・自分らしく居られる場所があることが必要

MASH 大阪はこれらの課題を達成するために、distaという場において信頼関係のもとに情報の整理と設置、人の配置、勉強会等の運営を行っている。

また、これまで明確でなかった「ふらっと来る人」に関してワークショップの中で言及し、誰か知り合い(スタッフ含)がいるか見に来る、休憩場所として立ち寄る、バーに行くまでの時間つぶし、待ち合わせ・待ち合わせまでの時間つぶし、誰か人がいるところにいたい、行くところがない、何かやりたいけどどうしていいかわからないといった様々な理由で気軽に立ち寄る人にとって、普通

にそこにあるものとしてHIV/STIの情報等を提示していることが明確になった。

4) MSMにおけるHIV/STD感染の動向に関する研究

(1) 感染症発生動向調査からみたMSMにおけるHIV/AIDSを含む性感染症の発生動向

a. 目的と方法

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施されている感染症発生動向調査で、全数報告されている後天性免疫不全症候群(以下、HIV/AIDS)、B型肝炎、アメーバ赤痢、梅毒について、感染経路が同性間性的接触と報告された男性の発生動向を解析した。

b. 結果・考察

男性(同性間性的接触)のAIDS未発症の報告数は2008年790例まで増加が続き、2009年に減少した後2010年は再び増加したが2008年の報告数は超えず、その後2011年、2012年は2年続けて減少し、2012年は714例であった。2011年に減少した東京都は2012年には再増加(+39例)したが、大阪府(-41例)等20府県が減少した。2011年・2012年の2年間合計の報告(以下、2011-12年)でみた年齢分布は、20代後半~30代後半の年齢群が多く、2009年・2010年の合計報告(以下、2009-10年)と比較して、特に30代後半が減少した。

AIDS患者は2005年を除いて2011年266例まで増加が続いたが、2012年は減少して234例であった。2011年にHIV感染者とともに減少した東京都は2012年に5例増加し、愛知県(-16例)、大阪府(-15例)等22府県で減少した。2011-12年では30代後半及び40代前半の2つの年齢群が多く、2009-10年と比較して特に30代が減少した。

2011-12年報告の男性全体報告に占める男性(同性間性的接触)割合をみると、全国値は、HIV/AIDS全体で70.0%(2009-10年51.5%)、HIV感染者では74.8%(2009-10年73.3%)、AIDS患者では59.0%(2009-10年66.7%)であった。

AIDS患者のHIV/AIDS全体の報告に占める割合は(全国値)、同性間性的接触による感染と報告された者では25.6%(2009-10年23.3%)、同性間性的接触以外による感染とされた者では41.6%(2009-10年44.0%)で、MSMのAIDS発症前の受検行動が推察された。

男性(同性間性的接触)のHIV/AIDS以外の性感染症の動向は次の通りであった。

B型肝炎の報告数は、2010年まで7(2006年)～19例(2008年)の範囲で推移していたが、2011年23例、さらに2012年30例と増加が続いた。2011-12年では20代前半～30代前半の3つの年齢群が多く、2009-10年と比較して主にこれらの3つの年齢群が増加した。A型肝炎はこの間には報告がなかった。C型肝炎は2003～2006年には報告がなく、2007～2011年は1～3例、2012年は8例とやや多かった。

アメーバ赤痢は73～91例の範囲であり、増減の明らかな傾向は認められなかった。梅毒は2007年までは52(2003年)～71例(2005年)の範囲で推移していたが、2008年132例に急増後は増加傾向にあり、2012年は277例であった。ジアルジア症は2003～2011年は1～6例の報告で、2012年は8例とやや多かった。

わが国のHIV感染者・AIDS患者を減らすためには、MSMにおける対策の推進が必要であり、感染者・患者の年齢層や地域的特性を把握し、他の性感染症対策と併せて実施することが重要である。

(2) 日本国籍MSMにおける出生年代別HIV/AIDSの動向分析

a. 目的と方法

日本国籍MSMにおける感染拡大の状況を把握するため、出生年代別にHIV感染者およびAIDS患者の動向を明らかにすることを目的とした。分析対象を20-59歳のMSMとし、出生年代別にMSM推定人口10万対のHIV感染者数(HIV罹患率)およびAIDS

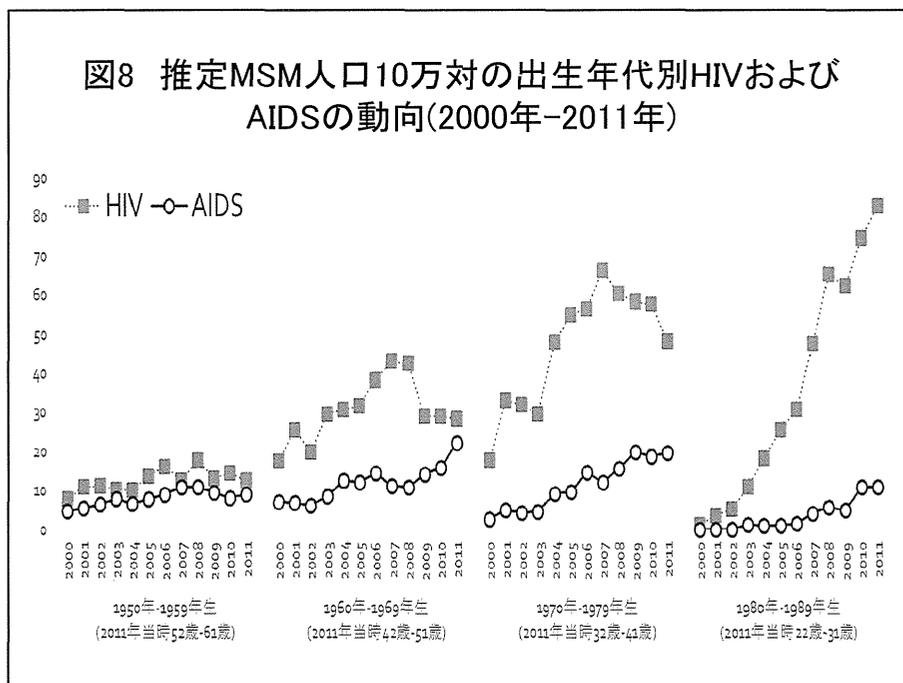
患者数(AIDS罹患率)を求め年次動向を明らかにした。MSM人口は本研究班で実施されたインターネットを用いた質問紙調査(n=39,766)によって信頼性の高いMSM割合(4.6%、95%信頼区間4.4%-4.8%)を用いて推定した。HIV感染報告数およびAIDS患者報告数は感染症発生動向調査から2000年から2011年までの動向について出生年代別に再集計した。

b. 結果・考察

出生年代別AIDS罹患率の年次推移は、1950年代生まれ以外のいずれの年代も増加傾向である(図8)。増加開始の時期は1960年代生まれでは2002年以降、1970年代生まれでは2003年以降、1980年代は2006年以降であった。

出生年代別HIV罹患率は、1980年代生まれ以外の年代はいずれも2007年、2008年以降で報告数が減少していた。各出生年代でHIV罹患率が最も高かったのは、1950年代生まれ17.7(2008年)、1960年代生まれ42.9(2007年)、1970年代生まれ66.3(2007年)、1980年代生まれ82.7(2011年)であり、出生年代層が若い群の方が高かった。

感染拡大を把握するために、出生年代別HIV罹患率、AIDS罹患率の推移について、直線回帰を用いて傾き係数を算出した。HIVでは1950年代生まれ0.9807、1960年代生まれ3.179、1970年代生まれ5.7449、1980年代生まれ7.5651であり、AIDSでは1950年代生まれ0.4243、1960年代生まれ1.0959、1970年代生まれ1.708、1980年代生まれ1.3436であった。係数値からHIV、AIDS共に各出生年代で増加傾向にあり、特にHIVは若年層ほど値が大きい結



果であった。

出生年代別 MSM 人口 10 万人当たりの感染者数、患者数の年次推移から、1980 年代生まれの若い年齢層は増加が続いており、傾き係数も他の年代より大きいことが示された。若い年代では早期検査につながっていると考えられる一方、予防行動がとられていないために感染が拡大していることも考えられる。AIDS 患者数も少ないながら増加しており、この年代層への啓発が必要である。

4. 自治体における MSM の HIV 感染対策構築に関する研究

NGO と行政の協働による施策(MSM の早期検査・治療・支援の促進)を構築するため、行政エイズ担当者と NGO との協働による取り組みを開始した。

1) エイズ対策事業に関する意見交換会

首都圏では、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の自治体や保健所と連携し、①自治体・保健所等とのエイズ対策事業に関する意見交換会、②保健所等の HIV 検査担当者への研修会、③MSM 向け広報資料やローページへの保健所等の検査機関掲載による MSM の検査促進、④HIV マップと連動した支援情報、検査情報の広報などが実施された。近畿地域では、検査事業に関わる専門職者がセクターを越えたネットワークを構築する場、プロフェッショナル・ミーティングを新たに執行した。

2) 保健所等の HIV 検査担当者への研修会

HIV 検査担当者を対象にした研修会は、6 地域で実施され、セクシュアリティ理解、地域の HIV 感染の疫学動向、MSM 受検者や HIV 陽性者への相談・対応に関する当事者参加型の模擬体験が研修内容として企画された。研修会を通じ NGO と行政の連携が図られ、自治体が行う HIV 検査の MSM 向け告知資料(ポスターやカード)作成に協力し、ゲイバーなどの MSM 向けの商業施設に配布することが行われた。

3) 保健所等での HIV 検査受検者動向調査

2011 年度から継続して実施した機関は東京都内(18 機関)、大阪府内(17 機関)、愛知県内(16 機関)、沖縄県内(3 機関)であり、2012 年度には神奈川県内(4 月より 7 機関)、福岡県内(4 月より 2 機関、10 月より 1 機関)、千葉県内(5 月より 12 機関)、宮城県内(8 月より 6 機関)、大阪府内(10 月より 1 機関)が新たに加わった。計 83 機関での実施となった(2012 年 12 月末時点)。

D. 考察

1. エイズ予防のための戦略研究の効果評価と政策還元

エイズ予防のための戦略研究で首都圏が行った『AIDS 発症を予防「できる！」キャンペーン』は、訴求性のある 4 種類の資料を様々な媒体を介して広報介入した。介入資料認知率は配布地域によって差異がみられたが、60%~70%と極めて高かった。そして介入資料の認知は、過去 6 ヶ月間の HIV やエイズに関する対話経験、周囲の HIV 感染者の存在認識を高めていた。首都圏では、HIV のリアリティを醸成するプログラムとして、2003 年から新宿 2 丁目で行われていた「Living Together 計画」のコンセプトを活用し、新宿以外のゲイコミュニティに、HIV のリアリティを伝えるキャンペーンを 2007 年から繰り返した。できるキャンペーンの認知は新宿地域が最も高かったこと、過去 1 年間の HIV 抗体検査受検経験が新宿地域でのみ資料認知群が有意に高かったことは、新宿地域での一連の活動の継続によるもので、啓発活動の時間的暴露量が関係したと思われる。

2. 地域の MSM における HIV 感染対策の企画、実施に関する研究

6 地域の NGO はコミュニティセンターを基軸に、商業施設、メディア、Web などのネットワークを介して、MSM に向けて様々な取り組みを継続し、また新たな取り組みを試行した。エイズ予防のための戦略研究が終了した後、2011 年 4 月から、厚生労働省の同性間のエイズ対策事業として、コミュニティセンター運営は事業となり、それまで研究班ベースで行われていた啓発プログラムの多くは事業として行われるようになった。研究班では、NGO のコミュニティベースの啓発活動の効果を評価する役割を持つと共に、地域の MSM に向けたエイズ対策を促進するために NGO、自治体・保健所等、研究班の連携体制の構築を計画した。NGO はコミュニティセンター事業を進める一方、自治体・保健所等との連携、そして研究班との評価調査の実施を進めてきた(表参照)。商業施設との関係構築は、6 地域の NGO が地域のほとんどの施設にアウトリーチを行っている。

3. MSM の行動科学調査および介入評価研究

成人男性 39766 人の内 MSM は 4.6%、その内商業

施設を利用する MSM が 1/3 を占めていた。この調査は、これまでに行ってきた商業施設利用者を対象としたバー顧客調査やクラブイベント参加者の調査と異なり、一般集団へのスクリーニング調査で得た MSM 回答者を対象としている。そして、商業施設を利用する MSM と利用しない MSM に分けて、性行動、受検行動、インターネット利用状況などを把握することができた。この調査により、商業施設利用者は非利用者に比べて感染リスク行動が高く、性感染症既往歴も高いことが示され、商業施設を介した啓発の重要性が示された。

また、MSM 割合が都道府県別に明らかとなったことで、地域別に MSM 人口当たりの HIV 感染者、AIDS 患者の有病率や罹患率を推定し、比較検討することが可能となった。さらに、サーベイランスにおける報告年と年齢から出生年を推定し、出生年代別の動向を把握することを可能とした。出生年代別の HIV 感染者数（人口 10 万対）では、1980 年代生まれが増加しており、その増加は他の年代よりも傾きが急であったことから、今後も MSM では HIV 感染の拡大が続く可能性がある。

エイズ予防戦略研究から継続発展した保健所等の HIV 検査受検者調査は 6 地域で実施が可能となり、今後 MSM などの受検者像が明らかとなる。調査結果は 3 か月毎に協力機関・自治体に還元している。戦略研究の調査も協力機関毎の分析結果を各施設に還元した。

GCQ アンケートでは、横断調査から追跡パネル調査を実施する体制を構築した。2012 年度は横断調査を 6 地域で実施し、パネル調査に参加した MSM からは 4 回の間歇調査にほぼ半数の参加があった。4 回のパネル調査継続率は 60% 強と有用であった。

上記の調査は、6 地域の NGO が展開する予防介入の評価、MSM 人口規模、わが国の MSM の検査行動やコミュニティへの接触等に関する実態把握を目的として実施した。調査を継続することで、MSM の HIV 感染予防行動、介入の浸透度など、介入の効果を評価し、検査行動、予防行動をモニタリングする調査手法の確立、またモニタリングを通じて MSM を対象とした介入の企画、実施、評価のための資料を収集したいと考える。

E. 結論

保健所等の受検者への質問紙調査を 6 地域で実施し、MSM をはじめ受検者層の動向を把握した。ゲイ NGO の啓発資材認知は MSM で高い一方、地域間差があった。MSM 対象の横断調査後に継続パネル調査を実施し、間歇的に行うパネル調査と NGO の啓発活動を連動させて効果を評価することが可能となった。成人男性の MSM 割合は 4.6%、商業施設利用の MSM は感染リスク行動が高く、商業施設ベースの啓発の必要性が示唆された。

1) 達成度について

保健所等の受検者への質問紙調査が 6 地域で実施が可能となり、MSM をはじめとする受検者の動向の評価が可能となった。ゲイコミュニティでの横断調査後に継続して行うパネル調査の実用性を確認した。間歇的に行うパネル調査と NGO の啓発活動を連動させ、啓発の普及効果を評価する。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義

戦略研究では当事者 NGO と関係機関が協働する研究体制を構築し、検査普及や予防介入に関する啓発事業と効果評価を行う研究を連動させて取り組むことの有効性を示した。今後のエイズ対策の展開に重要な成果も得られており、社会的意義が大きい。MSM における HIV、AIDS の有病率や発生率は全国的に増加状況にあり、6 地域で当事者参加型の研究体制に行政担当者を交え、MSM の HIV 感染策の企画、実施、評価の体制整備をめざす。

3) 今後の展望について

MSM 集団の横断調査、パネル調査、検査機関等の受検者調査から HIV 感染対策評価に有用な指標を提示する。エイズ予防戦略研究の成果の論文公表、エイズ担当者の MSM 対応研修のマニュアル作成、MSM の HIV 感染対策ガイドライン改定を行い、MSM の HIV 感染対策の自治体への導入を図る。

F. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

なし

表 「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」におけるコミュニティセンター・NGOとの協働研究について

地域	東北	首都圏	東海	近畿	福岡	沖縄
コミュニティセンター	ZEL	akta	rise	dista	haco	mabui
運営団体(NGO)	THCGR やろっこ	NPO・akta	Angel Life Nagoya	MASH大阪	Love Act Fukuoka/LAF	Nankr
研究内容 (NGOと協働で実施している内容)	<p>1.地域のゲイコミュニティ・ネットワーク(商業施設・メディア・インターネット・サークル等)を介した啓発活動(NGOの活動実施内容の記録)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のMSMを対象に行う啓発活動(目的、実施計画、実施内容)を研究班と共有し、それらの効果を把握する調査(下記2)を連動させる 1). コミュニティセンターの活動、2) MSM向けHIV感染予防促進のための啓発活動、3) MSM向けHIV抗体検査受検促進のための啓発活動 <p>2.地域のMSMを対象とした性行動・予防行動・受検行動およびNGO活動を評価する調査(NGOの協力による調査計画と実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MSMの性行動・予防行動・受検行動の動向を把握し、上記1の啓発活動による効果等を評価するために、コミュニティ内で横断調査、パネル調査を実施 1) MSM対象の横断調査参加者のリクルート(イベントパーティ、バー、サークル等への調査協力の確保、調査の周知・広報を行う) 2) 横断調査からリクルートした継続調査参加者へのパネル調査(数回にわたる調査)と啓発活動を連動し、プログラム評価をする 3) 調査結果をコミュニティへの還元(コミュニティペーパー、報告会等を介して調査結果を広報する) <p>3.行政・保健所との協働によるMSMへのHIV感染対策の体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のゲイNGOと行政の協働体制により、MSM対象のエイズ対策の具体的施策(NGOと連携した予防啓発、早期検査・治療・支援の促進)を図る 					
ゲイコミュニティとの連携 * 商業施設 ゲイバー、ショップ、 ハッテン場等 (2012年9月時点の報告)	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 仙台市 17/23軒 東北各県 15/18軒 ・クラブイベント ・バレーボール大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 東京 495/678軒 新宿、上野浅草、新橋、渋谷他 神奈川(SHIP)28/40軒 埼玉/千葉県 2/15軒 ・サークルや クラブイベント 約80件 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 名古屋 46/58軒 岐阜市店舗 ・クラブイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 キタ: 131/171軒 ミナミ: 44/57軒 新世界: 11/59軒 ・クラブイベント等 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 博多 65/69軒 小倉 16/16軒 ※H23年度時点 ・クラブイベント ・スポーツ大会など ・鹿児島へ資材を郵送 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け商業施設 那覇、沖縄市、今帰仁村 44/44軒 離島: 4/4軒 ・クラブイベント ・スポーツ大会など
行政との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市: エイズ性感染症対策推進協議会委員 ・世界エイズデーせんだい・みやぎ共催 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所職員等エイズ専門研修 他 東京都福祉保健局、埼玉県保健医療部、神奈川県保健福祉局、横浜市健康福祉局、千葉県健康福祉部: ・新宿区保健所:ゲイ向けエイズ・性感染症検査 ・港区保健所:MSM広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県: エイズ対策協議会 検査会イベント 世界エイズデー臨時検査広報協力 ・名古屋市: エイズ対策協議会 MSM対象検査会(NLGR、M検等) ・岐阜県 検査広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府: クリニック検査、MSM向けSTI学習会 ・大阪市: MSM向けHIV予防啓発広報誌制作 ・京都府: 若年層向けボランティア育成事業 MSM向け相談事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県、福岡市: セクシュアルヘルス懇談会 世界エイズデー福岡パネル展 エイズデー特例検査フライヤー作成 福岡県エイズ対策推進協議会 福岡市中央保健所 ・熊本県エイズ対策会議 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県: MSM向けHIV検査 キャンペーン
MSM対象調査 GCQアンケート パネル調査	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 2012 横断調査実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 調整 2012 横断調査 実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 調整 2012 横断調査実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 パネル調査実施 2012 横断調査 実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 パネル調査実施 2012 横断調査 実施 パネル調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2011 横断調査実施 パネル調査実施 2012 横断調査 実施 パネル調査実施
保健所等HIV検査受検者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市5施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京19施設、 ・神奈川7施設、 ・千葉14施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県3施設 ・名古屋市13施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府・市17 ・クリニック検査受検者7施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市3施設 ・クリニック検査受検者1施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県3施設

G. 研究発表

(2011-2012 年の研究班関連の論文、国際学会、国内学会の発表)

(論文等)

- 1) Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Toshio Machi, Daisuke Goto and Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, *Sexual Health*, 9(4), 328-333, 2012
- 2) 金子典代, 塩野徳史, コーナ・ジェーン, 新ヶ江章友, 市川誠一: 日本人成人男性における生涯での HIV 検査受検経験と関連要因, *日本エイズ学会誌*, 14(2), 99-105, 2012
- 3) 市川誠一: 男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査普及の取り組み-「エイズ予防のための戦略研究」後のエイズ発生动向の考察, *病原微生物検出情報*, 33(9), 231-232, 2012
- 4) 金子典代, 大森佐知子, 辻宏幸, 鬼塚哲郎, 市川誠一, *ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 感染予防行動のステージと関連要因: 大阪市内での商業施設利用者への質問紙調査から*, *日本公衆衛生雑誌*, 58(7), 501-514, 2011
- 5) Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, and Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan, *Sexual Health*, 8(1), 123-124, 2011
- 6) Jane Koerner, Seiichi Ichikawa: The Epidemiology of HIV/AIDS and Gay Men's Community-Based Responses in Japan, *Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific*, Published online, <http://intersections.anu.edu.au/issue26/koerner-ichikawa.htm>, Issue 26, Aug. 2011
- 7) Jane Koerner, Seiichi Ichikawa: Regional Feature: Testing, treatment and prevention among gay and other men who have sex with men in Japan - an update, *HIV Australia*, 9(3), 40-43, 2011
- 8) 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: 日本成人男性における HIV および AIDS 感染拡大の状況-MSM (Men

who have sex with men) と MSM 以外の男性との比較-, *厚生学の指標*, 58(13), 12-18, 2011

(国際学会)

- 1) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The Strategic Research "We can do it! 2010" campaign to promote testing behavior among MSM in the Tokyo region, The 16th International AIDS Conference, Washington DC, U.S.A., July, 2012
- 2) Noriyo Kaneko: Strategic Research to promote HIV testing among MSM (Men who have sex with men) in the wider Tokyo and Osaka regions, The 12th Asia-Oceania Congress of Sexology, Shimane, Japan, 2012
- 3) Akitomo Shingae, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Makoto Utsumi: HIV Testing among MSM Attending Community-based HIV Testing Events in Nagoya, Japan from 2008 to 2010, The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), Busan, Korea, 2011
- 4) Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Jane Koerner, Yukio Cho, Junko Araki, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: Results of the 2008 to 2010 RDS Mobile Phone Survey to Evaluate the Strategic Research HIV Testing Promotion Campaign among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
- 5) Kei Shibata, Kota Iwahashi, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: HIV Map Internet portal site: Part of the Strategic Research to promote HIV Testing among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
- 6) Tetsuro Onitsuka, Sohei Yamada, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Toshio Machi, Takaki Toda, Hirokazu Kimura, Kumiko Nakamura, Seiichi Ichikawa: Analysis of Paper Media Contents Targeting Approach to Outreach MSM in the Osaka Region, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011

(国内学会)

- 1) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 鬼塚哲郎, 後藤大輔, 町登志雄: MSM 向け予防啓発大規模イベントの継続が大阪の MSM コミュニティに与えた効果, 第 53 回日本社会医学学会総会, 高槻市, 2012

- 2) 金子典代, 塩野徳史, 市川誠一: 関西地域のゲイ・バイセクシュアル男性の HIV 感染予防行動のステージ分布の経年的変化, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 3) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: 保健所 HIV 抗体検査受検者における初受検者と再受検者の特性, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 4) 塩野徳史, 市川誠一, 金子典代: MSM (Men who have Sex with Men) コミュニティにおけるゲイ向け商業施設利用者と非利用者の比較, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 5) 佐々木由理, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 萬田和志: 郵送 HIV 抗体検査受検者と保健所検査受検者の特性の比較, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 6) 今橋真弓, 泉泰輔, 今村淳治, 松岡和弘, 金子典代, 市川誠一, 高折晃史, 内海眞, 横幕能行, 直江知樹, 杉浦瓦, 岩谷靖雅: HIV-1 感染伝播・病勢に対する APOBEC3B 遺伝子型の影響に関する解析, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 7) 塩野徳史, 新山賢, 市川誠一: 愛媛県在住 MSM (Men who have sex with men) における居住地別 HaaT えひめの活動認知と予防行動-Haat えひめ WEB アンケート 2011 から-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 8) 柴田恵, 岩橋恒太, 生島嗣, 荒木順子, 高野操, 市川誠一: 首都圏居住 MSM を対象とした web サイト「HIV マップ」における抗体検査への準備性に注目した情報提供手法の開発-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 9) 荒木順子, 佐久間久弘, 木南拓也, 大島岳, 柴田恵, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM を対象とするエイズ対策拠点としてのコミュニティセンターakta の機能の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 10) 町登志雄, 木南拓也, 藤浦裕二, 牧園祐也, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたアウトリーチ-アウトリーチ・マニュアル作成を通じて-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 11) 後藤大輔, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 萬田和志, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 市川誠一: ゲイ向けクラブイベントにおける郵送検査キットを用いた検査普及プログラムの試行と課題, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 12) 生島嗣, 荒木順子, 岩橋恒太, 柴田恵, 佐久間久弘, 大島岳, 木南拓也, 高野操, 塩野徳史, 市川誠一: HIV 検査提供機関, NPO, 研究機関による地域連携会議の効果に関する考察, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 13) 岩橋恒太, 荒木順子, 生島嗣, 塩野徳史, 佐久間久弘, 高野操, 大島岳, 木南拓也, 星野慎二, 柴田恵, 桜井啓介, 阿部甚兵, 市川誠一: 首都圏居住の MSM を対象とする検査普及プロジェクト「ヤロー」の構築と検討-「MSM 首都圏グループ」の取り組み, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 14) 大島岳, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 岩橋恒太, 市川誠一: コミュニティセンターakta における対面情報提供機能の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 15) 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 中村文昭, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 塩野徳史, 岳中美江, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 診療所を窓口とした個別施策層向け HIV 検査普及プログラムの確立に向けた検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 16) 塩野徳史, 市川誠一, 川畑拓也, 大里和久, 古林敬一, 岩佐厚, 亀岡博, 田端運久, 高田昌彦, 菅野展史: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度)-第 3 報-受検者の特性, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
- 17) 後藤大輔, 岳中美江, 鬼塚哲郎, 古林敬一, 亀岡博, 大里和久, 岩佐厚, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久: 診療所における MSM 向け HIV/STI 検査キャンペーン (2011 年度)-第 2 報-検査普及啓発資料について, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
- 18) 牧園祐也, 鷺山和幸, 山本政弘, 北村紀代子, 塩野徳史: MSM 対象の HIV/STI 迅速検査会実施と CBO によるターゲットアプローチの考察, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 19) 辻麻里子, 阪木淳子, 曾我真千恵, 米山朋子, 石坂昌子, 長与由紀子, 松尾聖麿, 緒方稔, 長浦由紀, 財津和弘, 友枝沙紀, 藪内文明, 泉真理子, 久米信也, 茂志穂, 牧園祐也, 野田雅美, 齊藤和義, 山本政弘: 九州ブロックにおける自治体と中核拠点病院等が協働した HIV 検査相談研修会実施のための体制整備を目的とする講師養成会議と研修会実施について, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 20) 山岸拓也, 尾本由美子, 川畑拓也, 白井千香, 高野

- つる代, 多田有希, 中島一敏, 灘岡陽子, 堀成美, 宮原愛理, 持田嘉之, 山内昭則, 中瀬克己: 地方自治体における感染症発生動向調査の業務を支援する性感染症発生動向結果活用ガイドラインについて, 日本性感染症学会第 25 回学術大会, 岐阜市, 2012
- 21) 松高由佳, 小谷野淳子, 小楠真澄, 橋本充代, 本間隆之他: MSM におけるセーファーセックスを妨げる認知のタイプに関する検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
- 22) 田中友麻, 本間隆之: 地域住民を対象として行われる介入研究のプログラム評価, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 23) 前島ゆき, 本間隆之: HTLV-1 抗体検査に関するエビデンスと実施体制の考察 HIV の経験から学ぶ, 第 71 回日本公衆衛生学会総会, 山口市, 2012
- 24) 日高庸晴, 本間隆之: インターネットによる MSM の行動疫学調査-経年変化分析の結果-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 25) 牧園祐也, 請田貴史, 川本大輔, 北村紀代子, 狭間隆司, 橋口卓, 山本政弘, 井上緑: 福岡地域における男性同性間の HIV 感染対策とその推進 CBO「Love Act Fukuoka (LAF)」の啓発活動の展開とコミュニティセンターhaco の有用性について, 第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 26) 片野春隆, 横幕能行, 菅野隆行, 福本瞳, 中山智之, 新ヶ江章友, 杉浦互, 市川誠一, 安岡彰: 日本人 MSM におけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルス (KSHV/HHV8) 抗体保有率について, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 27) 新ヶ江章友, 塩野徳史, 金子典代, 牧園祐也, 請田貴史, 川本大輔, 北村紀代子, 辻潤一, 橋口卓, 狭間隆司, 山本政弘, 市川誠一: 福岡のゲイ商業施設利用者を対象とした HIV/AIDS をめぐる啓発活動の効果評価, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 28) 塩野徳史, 新ヶ江章友, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 生島嗣, 鬼塚哲郎: ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価に関する研究, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 29) Jane Koerner, 市川誠一, 金子典代, 塩野徳史: 滞日外国籍 MSM (Men who have Sex with Men) の健康および HIV 関連ニーズに関する調査, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 30) 柴田恵, 岩崎恒太, 張由紀夫, 荒木順子, 高野操, 生島嗣, 市川誠一: 首都圏居住 MSM を対象とした web サイト「HIV マップ」における HIV 抗体検査情報提供手法の開発-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 31) 生島嗣, 荒木順子, 佐藤未光, 高野操, 中澤よう子, 星野慎二, 岩橋恒太, 張由紀夫, 市川誠一, 野口雅美, 滝田由紀子, 御子柴朋子, 新屋敷房代: 東京周辺の検査従事者にむけた研修会実施とその影響についての考察-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 32) 岩橋恒太, 高野操, 塩野徳史, 柴田恵, 生島嗣, 張由紀夫, 荒木順子, 砂川秀樹, 市川誠一: 首都圏居住 MSM に向けた HIV 抗体検査促進のためのキャンペーン「できる!」の構成と効果-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 33) 高野操, 塩野徳史, 石塚直樹, 金子典代, 市川誠一, 岡慎一, 木村哲: 首都圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの結果報告-エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 34) 鬼塚哲郎, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 山田創平, 塩野徳史, 市川誠一: 大阪の野外啓発大規模イベント「PLuS+」とその評価-エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 35) 岳中美江, 辻宏幸, 川畑拓也, 有馬和代, 古林敬一, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一: エイズの予防と共生をテーマにした野外イベント PLuS+における MSM を対象とした HIV 迅速検査会の実施について-エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 36) 塩野徳史, 高野操, 木村哲, 岡慎一, 市川誠一, 金子典代, コーナ・ジェーン, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 岳中美江: 阪神圏における医療機関、保健所などの検査機関における受検者動向と介入評価に関する研究(2009 年~2010 年)-エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ-, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
- 37) 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田畑運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所に

における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策—エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ—, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

38) 大野まどか, 岳中美江, 柏木瑛信, 白野倫徳, 伊達直弘, 野坂祐子, 松浦基夫, 矢島嵩, 青木理恵子, 生島嗣, 市川誠一: 地域における新 HIV 陽性者対象のプログラム実践について—エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ—, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

39) 井上洋士, 高久陽介, 矢島嵩, 戸ヶ里泰典, 山口達, 市川誠一: オーストラリアにおける HIV 陽性者 QOL 調査プロジェクト HIV Futures の現状と課題、及び日本でのフィージビリティについて, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

40) 吉澤繁行, 塩野徳史, 新ヶ江章友, 金子典代, コーナ・ジェーン, 市川誠一, 石田敏彦, 藤浦裕二, 真野新也, 内海眞: 名古屋の無料 HIV 抗体検査会を併設した野外イベント NLGR 来場者における来場経験別 HIV 抗体検査受検経験率とコンドーム常用率, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

41) 中村久美子, 木村博和, 荒木順子, 柴田恵, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ向けクラブイベント利用者質問紙調査による東京の加入プログラムの効果評価に関する研究, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

42) 金子典代, 岩橋恒太, 塩野徳史, Koerner Jane, 生島嗣, 荒木順子, 市川誠一: RDS 法を用いた携帯電話調査による首都圏での啓発プログラムの評価—エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ—, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

43) 荒木順子, 岩橋恒太, 張由紀夫, 砂川秀樹, 柴田恵, 高野操, 星野慎二, 塩野徳史, 生島嗣, 市川誠一: ゲイコミュニティ及び行政機関に向けた、首都圏における広報資材の大規模アウトリーチの構成と実績—エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ—, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011

44) 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策、平成 23 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部ウイルス部会研究会、

2011

45) 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策、第 1 回 AIDS 文化フォーラム in 京都、京都、2011

46) 川畑拓也, 辻宏幸, 後藤大輔, 町登志雄, 内田優, 鬼塚哲郎, 小島洋子, 森治代, 高野操, 塩野徳史, 田端運久, 古林敬一, 岩佐厚, 高田昌彦, 菅野展史, 亀岡博, 大里和久, 市川誠一: 対象を絞った広報と診療所における HIV 検査の組み合わせによる効果的なエイズ対策—エイズ予防のための戦略研究 MSM 京阪神グループ—, 第 2 回日本性感染症学会関西支部学術大会、京都、2011

Ⅱ. 分担研究報告

東北地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究分担者：伊藤俊広（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 医長）

研究協力者：太田貴、高橋幸二（やろっこ）、小浜耕治（東北 HIV コミュニケーションズ）、佐藤功、塚本琢也、鈴木智子、武藤愛、伊藤ひとみ（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）、塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

仙台市繁華街のドロップイン施設（community center ZEL：平成 22 年 3 月開設）が活動拠点となり、昨年同様感染拡大抑制のための企画立案・実施・評価研究がなされた。平成 23 年に発生した東日本大震災の復興期に入り仙台市への人口流入が生じており、感染機会の増加（感染症の持ち込み）が予想され、HIV 感染拡大が懸念される。調査結果からは ZEL 来館者は前年度より減少しており、HIV 受検率の増加はみられるもののコンドーム装着率の低下がみられている。

東北における「いきなり AIDS 率」は相変わらず高値で推移し平成 24 年 9 月の時点で 48%であった。感染拡大を抑制していくには抗体検査の実施機会を増やし早期診断を促す必要がある。AIDS 発症率を低下させるためにも、性感染症（梅毒、B 型肝炎、クラミジア etc.）や免疫障害だけでなく、あらゆる機会をとらえて抗体検査を実施していく必要がある。本年度の HIV 抗体検査に対する法改訂により、HIV 抗体検査の実施が促進される可能性があり、今後の検査数やいきなり AIDS 率の動向に注目したい。

A. 研究目的

HIV 感染症の拡大を抑止するためには MSM に対する積極的なアプローチが必要である。効果的な HIV 感染予防対策のため、MSM を対象に種々の企画を立案・実施し、さらにその評価を的確に行うための体制整備に関して研究を行う。東北地域における研究について分担した。

B. 研究方法

本年度も「仙台医療センター」、平成 5 年より HIV に関わる活動をしている NPO「東北 HIV コミュニケーションズ (THC)」、ゲイコミュニティ向けの HIV 啓発チーム「やろっこ」の三者を中心として、行政、医療、福祉、コミュニティ等と協働して東北地方における男性同性間の HIV 感染対策（下記 1～4 の事項）について、介入、企画実施、調査・研究を行っ

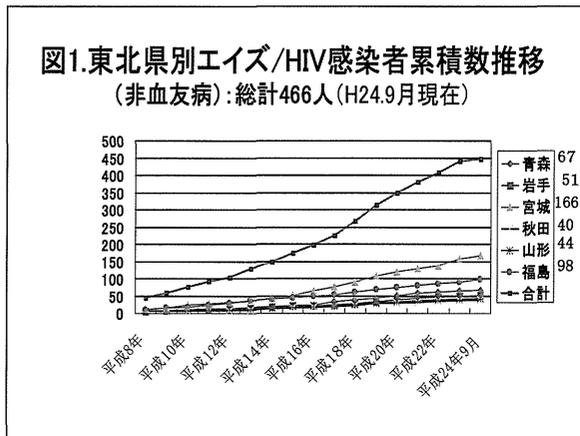
た。特に 3. のゲイコミュニティへの啓発活動として、community center ZEL の運営、啓発資料の作成・配布、HIV を身近に感じるためのイベントの開催、ゲイコミュニティを対象としたアンケート調査を行った。また、保健所 HIV 検査受検者に対してもアンケート調査を行い、検査受検者の特徴や差異を把握した。

1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め
2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複性感染症 (STI) の解析
3. ゲイコミュニティへの啓発活動
4. MSM における行動科学調査および介入評価研究

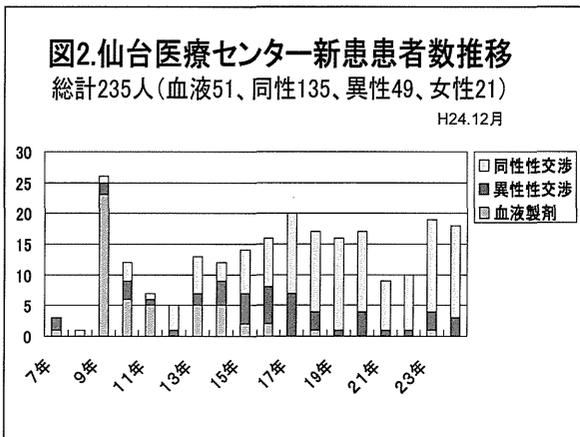
C. 研究結果

東北ブロックにおける HIV 感染者・AIDS 患者の累積数は平成 24 年 9 月時点で 466 名と報

告され、平成 23 年同時期と比べ 33 名増加した（図 1）。



仙台医療センターの受診者の内訳（平成 24 年 12 月末まで）をみると（図 2）、感染経路別頻度に変化はみられず男性同性間での性的接触による感染（MSM）がほとんどで、東北における MSM 対象の介入研究の重要性は他の地域と同様である。初診 HIV 患者数は 18 人であった（平成 23 年は 19 人）。



1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め

HIV 感染症は(STI)であることから種々の STI の診断を HIV 抗体検査の機会ととらえ検査件数の増加を促し、早期診断に結び付けることができる。平成 24 年度 HIV 抗体検査の算定条件の改訂により今までより積極的に検査を施行することが可能になった（図 3）。

以下に記す種々の研修会・会議を通して医療従事者に対して、改定内容を周知することにより積極的な HIV 検査の必要性について情報提供するとともに、行政とも連携し抗体迅

速検査も実践した。

図3.平成24年度HIV検査の算定要件の改訂

改訂前:

HIV感染に関連しやすい性感染症が認められる場合で、HIV感染症を疑わせる自他覚症状がある場合には、本検査を算定できる。



HIV感染に関連しやすい性感染症が認められる場合 **既往がある場合または疑われる場合**でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できる。

1) ブロック拠点・中核拠点・拠点病院連携（医師・歯科医師・看護師・薬剤師対象）

東北エイズ/HIV 看護研修（H24. 10. 2:仙台、31 名参加）、東北エイズ歯科診療協議会・連絡会議（H24. 1. 28:仙台 25 名参加、H25. 3. 2:仙台予定）、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議（H24. 1. 20:仙台 62 名参加、H24. 6. 26:福島、55 名参加、H25. 1. 16:仙台）、講演：①「HIV 感染者の血管障害と脂質異常症について」ACC 医療情報室長 塚田訓久、②「HIV/AIDS 患者の看護療養支援」ACC コーディネーターナース杉野祐子、発表：（福島県の取り組み）イ）福島県行政、ロ）福島県立医科大学病院、東北エイズ/HIV 拠点病院等薬剤師連絡会議（H24. 11. 10:仙台、24 名参加）、東北エイズ臨床カンファレンス（H24. 2. 26:仙台、59 名参加、H25. 2. 16:仙台、60 名参加）：講演：①「HIV 領域で問題となる真菌感染」国立国際医療研究センターACC 病棟医長 照屋勝治 ②「HIV/AIDS における服薬指導の実際～外来患者を中心として～」東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科薬剤師 宮崎菜穂子、東北 HIV ネットワーク会議（H24. 2. 26:仙台、11 名、H25. 2. 16:仙台、16 名）、福島県歯科医師会 HIV 研修(H24. 9. 6:福島市、H24. 10. 2:郡山市)、宮城県歯科医師会 HIV 研修（H25. 2. 23、仙台歯科医師会館）、HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養生研修（H24. 5. 23、24、仙台医療センター）、HIV/AIDS 臨床検討

会（ACC/東北大学/仙台医療センター症例、H24.11.3、東北大学病院）、宮城県 HIV/AIDS 勉強会（H24.9.29：仙台、80名参加）

2) 心理・MSW 連携

東北エイズ・HIV 拠点病院等心理・福祉職連絡会議（H24.11.10:仙台、36名参加）、平成24年度ブロックカウンセラー会議（H24.9月）、第4回東北HIVカウンセリング・ケース・セミナー（H24.9月）

3) 行政連携

HIV 迅速検査会（仙台市主催）（H24.6.2、12.1:仙台）、仙台市エイズ・性感染症対策推進協議会（仙台市主催）（H24.8.30、H25.2.1:仙台）、エイズ患者・HIV 感染者への支援に関する勉強会（仙台市健康福祉局感染症対策課主導、H24.12.20、仙台医療センター）、仙台医療センター健康まつり即日検査会（H24.10.27:仙台、30名受検）

4) 介護福祉連携

AIDS/HIV 感染症出張セミナー（介護保険施設、仙台、約20名参加）H24年度HIV感染者・エイズ患者の在宅医療、介護環境整備事業実地研修（仙台医療センター、H25.2.18~3.1、1名受け入れ）

5) 啓発・教育

THC 内部研修（対象5人、H24.7.1、仙台ZEL）、コミュニティセンターZEL 主催勉強会（H24.8.4、仙台ZEL）、院内新人オリエンテーション（H24.4.5、仙台医療センター）、宮城大学看護学科大学院生 HIV 特別講義（対象4名、H24.11.6 宮城大学）、山形病院附属看護学校講義（H24.8.28）

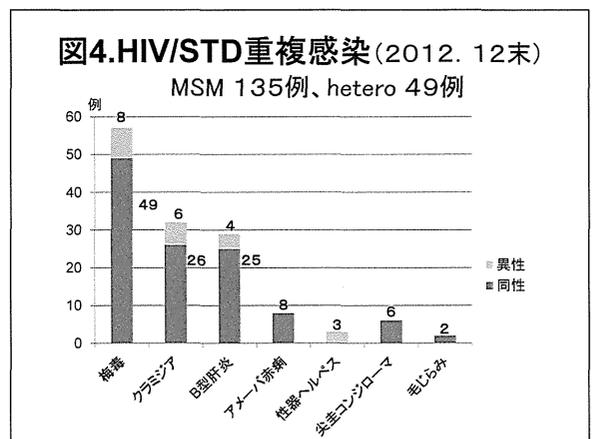
6) その他（別主催研修/会議出席、講演など）

ACC 研修1週間コース（H24.6.11~15、ACC）、ACC 研修1か月コース（H24.10.9~26、ACC）、ACC/ブロック拠点病院看護管理者会議

（H24.6.1、ACC）、ACC/ブロック拠点病院実務担当者フォローアップ研修（H24.6.2、ACC）、ACC/ブロック拠点病院実務担当者会議（H25.3.9予定、ACC）、第4回HIV/AIDSブロック拠点病院薬剤師連絡会（H24.5.18、東京）、HIV/AIDS 北海道医療者研修会（H24.5.26）、HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養生研修（H24.6.4~5、広島）、災害時に対応した抗HIV薬・凝固因子製剤供給ネットワーク会議（H24.8.8 仙台、H24.8.14 石巻）、第5回HIV/AIDS ブロック拠点病院薬剤師連絡会（H24.10.12、東京、）、第5回みちのく血友病カンファレンス（H24.10.6、仙台）、HIV 検査相談研修会（H24.10月、北陸ブロック石川県立中央病院）、第二回湯布院アカデミア/がん・エイズ医療における心理職を対象とした指導者養成プログラム開発研究会（H24.12月）、北関東・甲信越地区エイズ治療拠点病院SW 連絡会議（H24.9.1、高崎）、HAND 研究会（H24.8.25 東京）、など。

2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複 STI の解析

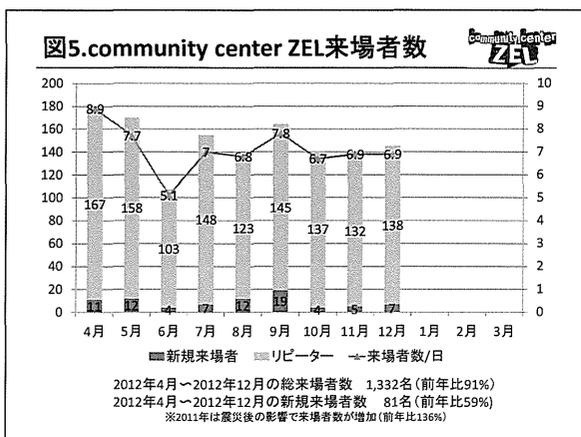
重複 STI の解析（図4）では、MSM における STI 重複感染率（特に梅毒、クラミジア、B型肝炎）は非常に高かった。本調査がカルテベースの後ろ向き調査であることを考えると、実際の重複感染率は、さらに高値を呈するものと思われる。



3. ゲイコミュニティへの啓発活動

MSMを対象としたcommunity center ZELは、平成22年3月20日に仙台の繁華街である国分町に開設され、仙台でMSMを対象にHIVの情報を届けるボランティアグループ「やろっこ」が運営を担っている。平成22年度には、1,311名、平成23年度には1,896名の来場者があり、仙台を中心とするゲイコミュニティに対しHIVに関する情報提供を行ってきた。

平成24年度の入館者は12月末時点で1,332名であった。平成23年度の同期間と比べ91%の入館にとどまっているが、それでも平成22年度と比較すると124%と増加している。ただし、新規入館者数が12月末時点で81名（平成23年同期間対比59%、平成22年63%）と減少している。community center ZELの周知や、新規入館を促す催しの企画などに力を入れる必要がある（図5）。



本年度、community center ZELでは、HIVに関連した冊子やコンドームを配布するだけでなく、様々なイベント等を通してHIVに関する情報提供を行った。特に、HIV陽性者の生の声に触れる事を目的とした「HIV陽性者と語ろう」を新たに実施。HIV陽性者の知合いがいない人たちに、HIV陽性者の生活の実態を伝える事ができただけでなく、毎回、地元のHIV陽性者の参加があった。自分以外のHIV陽性者と話す機会が少ない東北のHIV陽性者にとっても、ニーズがある企画となった（図6）。

図6.community center ZEL年間イベント

月日	イベント	人数	月日	イベント	人数
4/14	MOON	10名	9/29	HIV陽性者と語ろう	11名
5/12	コンドーム お買い物ツアー	8名	10/13	MOON	6名
6/1-12	写真展「Positive Lives」	44名	11/16-30	living Together in SENDAI 写真展	79名
6/16	R-35	6名	1/26	MOON	
7/14	MOON	6名	2/23	R-35	
8/4	HIV陽性者と語ろう	7名	3/16	HIV陽性者と語ろう	

- コンドームお買い物ツアー
コンドームやローション等Safer Sexに必要なものを、店頭でじっくり選んで買う機会を提供し、コンドームの使用・購入を促すイベント。
対象：コンドームの購入経験がない人、知識があまりない人
- 写真展「Positive Lives」
HIVに感染して生きている人たち、AIDSに影響を受けた人たちの日常を捉えた国際写真展。（仙台市エイズ即日検査会の日程に合わせた特別展）
6/1-12はMSM向けにZELで、11/23-12/9は一般向けに別会場で開催。

啓発資材の配布（図7）としては、平成23年度に引き続き、本年度も仙台市エイズ即日検査会のMSM向け告知資材（ポスターとカード）をゲイバーなど、MSM向けの商業施設に配布し、HIV検査の啓発を行った。

また、新たに、岩手中部保健所のHIV即日検査会のMSM向け告知資材（フライヤー）を作成し、盛岡市内のMSM向け商業施設に配布。実際に、MSM向け告知資材を見て検査に来たという受検者がいたとの報告を受けた。

図7.HIV抗体検査受検促進のためのMSM向け資材作成・配布

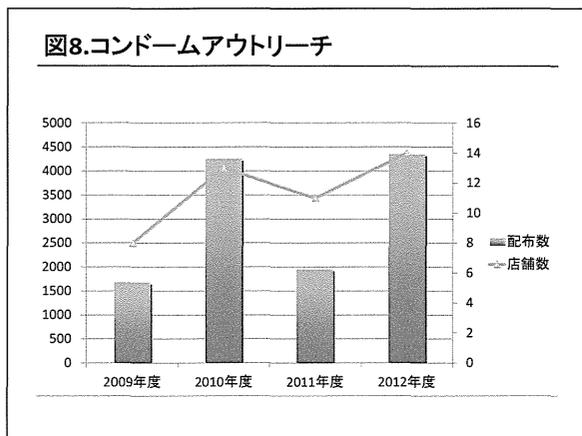
- 仙台市HIV検査会（6/2および12/1）
フライヤー1,500部 ポスター200部
【配布時期】
1回目：5月～配布開始（6/2検査会告知）
2回目：10月～配布開始（12/1検査会告知）
【配布先】
仙台市内のMSM向け商業施設（16軒）
クラブイベント（5/3、10/6）
ハレ大会（5/4）
community center ZEL
- 岩手県中部保健所HIV検査会
フライヤー200部
【配布時期】11月
【配布先】
岩手 MSN向け商業施設（5軒）
community center ZEL
- 盛岡市保健所 検査告知協力
盛岡市保健所作成の抗体検査案内ポケットティッシュの配布協力
【配布時期】12月
【配布先】
岩手 MSN向け商業施設（5軒）

「（ゲイバーで）チラシを見て来た」というMSM受検者あり。

ゲイバーへの定期的なコンドーム配布に加え、9月よりハッテン場（協力店1軒）でのコンドーム配布を開始した（図8）。4月から12月までの9ヶ月間でゲイバーとハッテン場の計14店舗で、計4,350個配布した。すでに平成22年度の配布数（4,250個）を上回っている。このうち、ハッテン場での配布数は4ヶ月で1,500個であり、ゲイバーよりも直接的にコンドームが必要な場所である事から配布数が増えた。

HIVを身近に感じるためのイベントとして

年 1 回開催して来た「ぼくらの課外授業 -Living Together in SENDAI」を本年度は 2 回（8 月、12 月）開催し、のべ 168 名の参加があった。



4. MSM における行動科学調査および介入評価研究

1) HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

平成 24（2012）年 8 月から、HIV 保健所検査受検者に対するアンケート調査を県内 6 ヶ所の検査機関の協力を得て実施した；仙台市青葉区保健福祉センター、仙台市泉区保健福祉センター、仙台市太白保健所、仙台市宮城野保健所、仙台市若林区保健福祉センター、財団法人結核予防会宮城県支部。

アンケート調査協力機関における受検件数は第 3 四半期（2012 年 8 月-9 月）が 234 件、第 4 四半期（2012 年 10-12 月）が 475 件で全期間の総受検件数 709 件のうち陽性判明数は 0 件であった（付表 1a）。またアンケート回収数は第 3 四半期が 214 件（回収率 91.5%）、第 3 四半期、第 4 四半期それぞれの初受検者割合は 51.9%と 54.5%、24 歳以下割合は 18.2%と 23.4%、MSM 割合は 12.1%と 9.6%、性風俗利用者割合は 25.2%と 24.1%、性風俗従事者割合は 3.3%と 4.4%であった。

また MSM の特性を把握するため、受検経験に着目し、初受検者と再受検者の差異を検討した（付表 1b 及び 1c）。初受検者 MSM 中の未婚者の割合は 40.0%であったのに対し、再受検者 MSM では 94.4%であり、再受検者 MSM で

未婚者の割合が有意に高かった（ $p < 0.01$ ）（付表 1b）。

また周囲の HIV 感染者の存在について「いる・いると思う」と回答した割合は初受検者 MSM で 20%に対し、再受検者 MSM で 77.8%となっていた（ $p = 0.04$ ）（付表 1c）。一方、過去 6 ヶ月間に HIV 感染不安を感じるものが「よくあった・時々あった」と回答した割合は初受検者 MSM で 80%に対し、再受検者 MSM で 27.8%であった（ $p = 0.03$ ）。

広報資材認知について、行政の紙資材・ポスター広報誌、行政のホームページ、NGO 資材、HIV マップ、HIV・検査相談マップ、AC 広告のいずれかの資材を認知していた割合は、初受検者 MSM で 80.0%、再受検者 MSM で 77.8%であった（ $p = 0.92$ ）。資材別では、行政のホームページ認知が初受検者 MSM と再受検者 MSM のいずれでも 60% を超えていた。また、NGO 資材認知割合は初受検者 MSM では 0%であったが再受検者 MSM では 33.3%であった。HIV マップ認知割合についても初受検者 MSM では 0%であったが再受検者 MSM で 16.7%であった。

2) インターネット横断調査および追跡パネル調査

コミュニティベースの携帯電話による性の健康に関する質問紙調査（以下、GCQ アンケート）として、クラブイベント等と連携した横断調査、その後の追跡パネル調査を実施した（研究方法の詳細については、分担研究の「MSM における HIV 感染の行動科学調査および介入研究」を参照）。

東北地域では、クラブイベントと連携したコミュニティベース質問紙パネル調査を 5 月と 7 月、10 月、12 月に実施した。5 月の横断調査では 153 件の有効回答を得た（ただしこの 153 件には他地域で実施した調査で、居住地が東北であると回答した人を含んでいる）。5 月は 39 件、7 月は 40 件、9 月は 38 件、1 月には 34 件の有効回答を得た。



5月に実施した横断調査の153件の有効回答について分析を行い、結果を(付表2a~2e)に示した。過去6か月のゲイ向けサービスの利用については、スマートフォンのゲイ向けアプリが40%の使用割合であり、昨年の20%と比較しても高くなっていった。回答者のうち、生涯のHIV検査受検経験を有する割合は58%であった。過去1年の検査受検経験は35%で、平成23年の32%を上回り、これまでの調査の中で最も割合が高かった(表1)。

表1. HIV抗体検査の受検率(過去1年間)

H20	H21	H22	H23	H24
24%	29%	23%	32%	35%

過去6か月のアナルセックスは全回答者のうち84%に経験があった。過去6か月にアナルセックスを行ったもののうち、いずれの相手用コンドームを常用していたものの割合は、48.9%であった。コンドームの常用率については、30~55%と低くなっており、特に、友達やセクフレなどが相手の場合にコンドームの使用割合が低くなることが明らかになった(表2)。

表2. コンドームの常用率(過去6ヶ月)

彼氏や恋人相手	49%
友達やセクフレ相手	31%
その場限りの相手	55%

啓発資材の認知については、ZELの認知と来訪経験があるものは、合わせると全体の40%であった。オリジナルのコンドームの持ち帰り経験・認知は40%であり、コミュニティペーパーの購読経験は31%であった。

D. 考察

東北においては、診断時にAIDSを発症している、いわゆる「いきなりAIDS」の率が高い。動向調査によれば平成24年は9月の時点ですでに48%台の値を呈している。この状況を改善させていくためには例年同様、種々の職種における研修会・研究活動を活発化し、HIV感染症について意識を高めHIV抗体検査実施件数を増やすとともに感染予防の啓発をすすめていく必要がある。本年度のHIV抗体検査算定基準の改訂措置は、医療機関における抗体検査施行の敷居を下げるものであり、HIV感染症の早期診断に貢献するものと考えられる。

東日本大震災後の復興期に入り、仙台の人口が急増している中、残念なことにcommunity center ZELの来館者数は前年より減少している。また、アンケートの結果を見ると、過去1年間のHIV抗体検査の受検率は、過去最高となっている(これはHIV検査会などのMSM向け周知の成果とも言えるが)にもかかわらず、コンドームの使用率は高くなっていない。

また保健所における HIV 検査受検者中、MSM 割合が 12%であった。特に再受検者 MSM は、大多数が未婚であった。更に再受検者 MSM で周囲に感染者が存在すると考えている割合は 80%近くに及び、周囲の感染者の存在が再受検の動機となった可能性がある。一方で、再受検者 MSM の過去 6 ヶ月に感染不安を感じたことがある割合は初受検者 MSM に比し低くなっており、再受検に際しては必ずしも感染不安が受検動機となっているわけではない可能性もある。

資材認知については、初受検者 MSM と再受検者 MSM のそれぞれ 80%近くが広報資材を認知しており、初受検及び再受検のいずれにおいても広報資材が検査受検に影響した可能性は高い。また、対象者数が限られており、有意とはならなかったものの、NGO 資材や HIV マップは、再受検者 MSM において認知度が高まっており、初回受検後にこれらの資材を認知する機会が増加する可能性が示唆された。ゲイコミュニティに向けた啓発資材の提供を含む HIV 検査に関する情報提供を今後も積極的に継続するべきである。

GCQ アンケートについては、対象者の年齢層は他地域と同じく、若い年齢層の方が多い傾向が見られた。平成 21 年に実施したクラブイベント調査、平成 22 年の GCQ アンケートと比較して、29 歳以下の占める割合が半数以上を占めていた。今回はパネル調査も実施し、4 回調査を実施し、対象者の追跡を行った。東北地域は追跡可能者が 50 名を満たしておらず、より一層の対象者の確保が必要となる。しかしパネル調査の第 1 回目に回答した 39 名のうち、27 名は 4 回とも調査に回答しており、追跡可能率は 69.2%と高いため、パネル調査第 1 回での回答者数確保が重要となると考えられる。また介入の目的や対象者層についてはターゲットを定め集中して介入を実施しその前後で GCQ アンケートを行うことで活動効果評価ができるようになることが考えられる。

震災後復興期にある仙台には全国各地から人が集まる状況が生まれており、感染症が持ち込まれ広まる可能性もある。HIV 感染症も同様に、今後感染の拡大が懸念される事から、よりいっそう HIV/AIDS の啓発活動に力を入れる必要がある。community center ZEL の周知や、コンドーム使用を広める取り組みを行うことが急務である。

E. 結語

東北（仙台）のゲイコミュニティへ向けた啓発（企画、実施、評価）の体制作りが ZEL を中心とした活動により進みつつある。東日本大震災からの復興期に入り、仙台市への人口流入が生じており感染拡大が懸念される。東北各地域の MSM との接触機会を増やし活動範囲を広げ、HIV 感染拡大に対する予防啓発活動を積極的に進めていく必要がある。今後も協力可能な NGO と連携を強め、MSM におけるゲイコミュニティの理解を得つつ、より効果的なプログラムを開発・提供し、MSM の行動変容が可能になるようにしていく必要がある。そのためには戦略的に行政等の機関への提言を行い、より広い連携体制を構築していくことが求められる。

F. 発表論文等

（○印は当研究班に関連した発表論文等）

1. ○Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, and Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan, *Sexual Health*, 8 (1), 123-124, 2011

（国内学会発表）

1. 佐藤麻希, 山本善彦, 阿部憲介, 水沼周市, 諏江 裕, 伊藤俊広: 災害時に対応した抗 HIV 薬供給と服薬支援策の検討～東北ブロック中核拠点病院・拠点病院薬剤師間の

さらなるネットワーク構築の第一歩～, 第
26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 2012
年 11 月, 横浜

2. 阿部憲介, 佐藤麻希, 佐藤 功, 諏江 裕,
伊藤俊広: 当院における TDF 関連高 CK 血
症の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集
会・総会, 2012 年 11 月, 横浜
3. 服部純子, 瀧永博之, 渡邊 大, 長島真美, 貞
升健志, 林田庸総, 近藤真規子, 南 留美, 吉
田 繁, 森 治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加
藤真吾, 千葉仁志, 佐藤典宏, 伊藤俊広, 佐藤
武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田
康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛
吉, 西澤雅子, 岡 慎一, 伊部史朗, 松田昌和,
林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田
邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田
昇, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男,
杉浦 互: 新規 HIV/AIDS 診断症例における
薬剤耐性 HIV の動向, 第 26 回日本エイズ学会
学術集会・総会, 2012 年 11 月, 横浜

付表1a. HIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査の概要

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
参加施設数		6		6	
検査件数					
男性			166	293	459
女性			68	175	243
その他			0	7	7
計(A)			234	475	709
陽性判明数					
男性			0	0	0
女性			0	0	0
その他			0	0	0
計(B)			0	0	0
陽性判明率					
男性			0.00%	0.00%	0.00%
女性			0.00%	0.00%	0.00%
その他			0.00%	0.00%	0.00%
計(B/A)			0.00%	0.00%	0.00%
回収数(C)			214	457	671
回収率(C/A)			91.5%	96.2%	94.6%
初受検割合			51.9%	54.5%	53.2%
24歳以下割合			18.2%	23.4%	20.8%
MSM ^{*1} 割合			12.1%	9.6%	10.9%
性風俗利用者 ^{*2} 割合			25.2%	24.1%	24.7%
性風俗従事者 ^{*3} 割合			3.3%	4.4%	3.8%

*該当期間に得られた回答すべてを母数として割合を算出した。

*1 Men who have sex with men;生涯に男性との性交経験を有する男性

*2 過去6ヶ月間にお金を払った性交経験を有する人

*3 過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験を有する人